

問題 その5 焼き物みたいだけど、形がへん。

これなんだ？

次の二つの中からえらんでね！

1. 「石けり」 ケン、ケン、パツ？
2. 焼き物の破片を使った砥石（といし）
これは便利だ？



ヒント 割れ口がつるつるしているような・・・。

1. 「石けり」

「石けり」には、平べったい石を選ぶのがコツだよね！・・・え？「石けり」を知らない？

ガン Σ (・□・;)・・・。

地面に丸や四角のわくをかくて、そこに石を投げ入れて、そこまで片足でとんでいって・・・知らない？え～！！・・・今の外遊びトレーナーのもとで修行してきます・・・。

というわけで、

ぶ～ぶぶ～・・・

「石けり」じゃあないんだよオ。

正解は、焼き物の破片を使った砥石（といし）なんだよ。くわしくは、2.を見てね！

※中央区・今宮2号遺跡（いまみやにごういせき）出土。戦国時代（もとの焼き物の時代は南北朝時代）。

めざせ！さいたま考古マスター・スペシャルコラム「石けり」

「石けり」を知らない、っていう声が聞こえてきたので、あらためて調べてみたら、自分が思っていたものは、「正しい石けり」ではないらしいことがわかってきたんだ。それで、身近なさいたま考古マスターやさいたま考古トレーナーのみんなに、①「石けり」を知っているか、②知っている人はどんな遊びだったか、を緊急調査してみたんだよ。

そうしたら・・・な、な、なんと！ 1980年ころをさかいにして、知っている／知らない が分かれることがわかったんだ。「石けり」を知っている、っていう人は、

ほとんどが1980年より前に生まれた人。それよりあとに生まれた人の大半は、「石けり」を知らなかったんだ。

それともう一つ、な、な、なあんと！！ 「石けり」を知っている人の間でも、遊びの内容が違っていたんだ。地面に○や□を書いて、片足で石をけりながら○や□の中を進んでいく遊び方もあれば、○や□に石を投げ入れて、そこまで○や□にあわせて跳んで行って・・・という遊び方、平行する線を2本引いて、その間を決めた回数で跳んでいくという遊び方・・・。ん十年前のことなので、記憶があやふやになっているところもあって、細かなところはわからない、っていう人がほとんどなんだけど、それでも同じ名前でも読んでいても、だいぶ違いがあることがわかったんだよ。

そういう違いがある一方で、ポイントは平たい石を見つけること、っていうのはけっこう共通していたんだけど、そもそも石を使わないで、「ケン、ケン、パッツ」で遊ぶのを「石けり」って呼んでいた、っていう人もいたんだよ。いやあ～「たかが石けり、されど石けり」、おそろべし「石けり」！！

それと、道路の側溝のフタが整備されたら、その上を○や□のかわりに使うように進化させた、っていう人もいたよ。みんなもそうだと思うけど、遊べる場所のようすやみんなの工夫で、遊びはどんどん進化していくんだね！

さあ、みんなも、まわりの人にインタビューしてみて、歴史研究の第一歩を踏み出してみよう。ただし、「わたしは歴史の生き証人じゃないわ！まだまだ歴史をつくっているのよ！」っていう人もいるし、「石けり」を知っているからといって、1980年より前の生まれってきめつけたりしちゃあだめだよ。もしかしたら、今回調べた範囲より広い範囲で調べたら、全然違う結果になるかもしれないからね。みんなの調査に期待しているよ！

参考データ

調査サンプル	約20人
生まれた年	1950年代～1990年代くらい（正確な年をいわない人あり）
遊んだ場所	さいたま市内、埼玉県内、山梨県内、東京都内 ほか